



プロジェクト

学び考える「知のプラットフォーム」。

里山里海

自然と人の調和を生物多様性という視点から

金沢大学



里山里海は
持続可能社会の
キーワード



持続可能な地域発展をめざす「里山里海再生学」の構築 — 能登半島から世界へ向けた発信 —

2010年～

〒920-1192 石川県金沢市角間町 地域連携推進センター
Tel.076-264-5290 Fax.076-234-4045

E-mail : chrenkei@adm.kanazawa-u.ac.jp http://www.adm.kanazawa-u.ac.jp/satoyama/

里山里海再生学がめざすもの

能登半島は、豊かな自然(里山・里海)と伝統文化に恵まれていますが、農林水産業の不振、過疎・少子・高齢化の急速な進行によって、里山・里海が荒廃し、一部では地域社会の維持が困難になりつつあります。里山・里海の持続管理による地域再生を目指して、地域、行政、企業等と連携した統合的環境研究を実施します。

『里山里海再生学』の5 ミッション

- 1 里山・里海の過去の変遷の解明
- 2 物質循環と生物多様性からみた現在の里山・里海の流域アプローチによる動態解析、特に人間活動のインパクトの評価
- 3 環境配慮型の農林水産業の構築、バイオマスの活用技術の開発
- 4 里山・里海の保全・活用を通じた地域再生シナリオの構築
- 5 持続可能な共存社会を構築する力(学士課程)と地域再生に必要な高度な知識・技能(大学院博士課程)を備えた教育・人材育成

実施体制

金沢大学では、地域連携推進センターと環日本海域環境研究センターのメンバーを主力とし、理工研究域、人間社会研究域、医薬保健研究域等を加え、学外(石川県立大学、石川県農業総合研究センター、石川県林業試験場、石川県のと海洋ふれあいセンター、珠洲市、輪島市、能登町、穴水町、七尾市、国連大学高等研究所いしかわ・かなざわオペレーティング・ユニット等)とも連携しています。また、平成22年10月に金沢大学内に設置された「能登オペレーティング・ユニット」が活動をコーディネートし、能登半島における教育・研究・地域連携を支援し、既存の能登臨海実験施設や能登学舎はじめ各地に活動拠点をつくりあげます。



「能登里山マイスター」養成プログラム

2007年～

〒927-1462 石川県珠洲市三崎町小泊33-7 金沢大学能登学舎2F
Tel.0768-88-2568 Fax.0768-88-2899
E-mail : meister@ad.kanazawa-u.ac.jp http://cr.lib.kanazawa-u.ac.jp/meister/

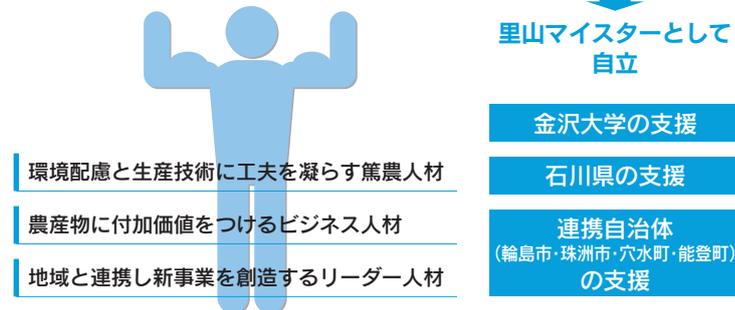
トキが舞い、自然と調和した美しい能登半島を目指して、就農を志す若い担い手を能登に呼び込みます。環境配慮型農業を実践し、農産物に二次・三次の付加価値をつけて市場に出し、能登の自然と文化資源を活かした新ビジネスの拠点を創り出す地域リーダーを養成します。意欲的な若者が集う人材養成のプログラムです。

どのような人材を育てるか

就農・起業に意欲を燃やす45歳以下の
チャレンジ精神旺盛な人



3つの要素を備えた人材を養成 → 講座修了後に就農計画を提出



カリキュラム4大特徴

1. 能登の自然と文化の魅力を支理融合による科学的視点から学ぶ。
2. 能登の地域資源、ICT最先端技術、ブランド戦略など起業に必要な発想やノウハウを学ぶ。
3. 金沢大学の「里山駐村研究員」制度を活かし、現場の経営技術と経営者スピリットを学ぶ。
4. 市長・町長、NPO、地元企業のトップから、生の声を聞き、リーダーシップを学ぶ。

講師陣

- ・常駐教員による担任指導
- ・金沢大学、石川県立大学から講師派遣
- ・民間企業の社長等多彩な講師を招へい
- ・現地リーダーによる実学指導

学 舎 長	能登学舎常駐スタッフ	地元のベテラン指導員

金曜日は能登空港で地域づくり支援講座



「地域づくり支援講座」(金曜)の授業風景

土曜日は能登学舎での講義・実習



東京築地市場調査



農業参入した(株)スギヨ農場での実習

働きながら学べるサポート体制

自治体、企業、NPOなどの協力を得て、受講生が働きながら学べる環境をつくります



のと半島里山里海アクティビティ

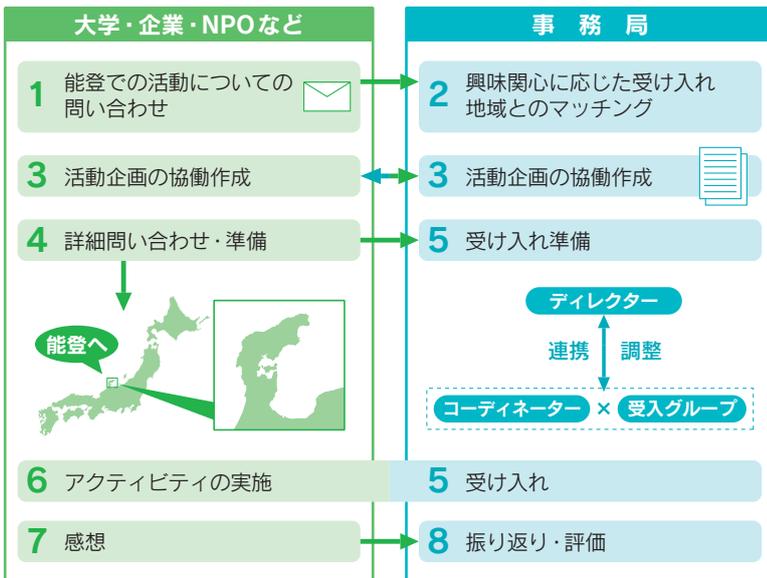
2009年～

〒927-1462 石川県珠洲市三崎町小泊33-7 金沢大学能登学舎1F
Tel&Fax.0768-88-2528

E-mail : activity@adm.kanazawa-u.ac.jp http://www.crc.kanazawa-u.ac.jp/activity/

人と人が交わることで、新たな可能性が生まれます。能登と都市圏の交流は、特に重要です。能登半島の里山里海をテーマにして、学生や都会の若者が地域の人たちと交流しながら保全活動や教育・研究活動を繰り広げます。交流人口を3年間で1000人増やし、能登の可能性を高めます。

アクティビティの流れ



教育・研究

大学のゼミ活動や調査研究の支援をします。地域とのマッチングはもちろん、研究シーズ探しを手伝います。海外からの研修員も受け入れます。

NPO・市民活動

里山里海のもつ社会的課題にチャレンジする人々を、能登につなぎます。環境保全活動、伝統文化の継承、地域とのワークショップなどをコーディネートします。

企業との連携・CSR活動

CO₂排出削減、里山里海保全などのCSR活動、社員教育、福利厚生など、さまざまな企業ニーズに、農山漁村の資源を活かします。

環境教育による人づくり

「能登いきものマイスター」養成講座

2010年～

〒927-1462 石川県珠洲市三崎町小泊33-7 金沢大学能登学舎1F
Tel&Fax.0768-88-2528

E-mail : akaishid@staff.kanazawa-u.ac.jp http://blog.canpan.info/ikimono/

人と自然の調和と持続的にかかわりの大切さを、生物多様性を通じて学び、実践するマイスターを、年間5人ずつ養成します。受講生のニーズに応じて、里山里海の生物多様性を子供たちや市民に分かりやすく教える技能や、農林漁業者やエコツアーは、現場で生物多様性を守り、活用する方法を伝えます。

能登のフィールドを活用した実践研修

- 1 里山里海の保全と生物多様性の大切さを伝える人材を養成します。
- 2 能登学舎周辺と保全エリアを、「里山里海学習フィールド」として整備します。
- 3 里山里海の環境教育に用いる分かりやすい教本を作成します。

いきものマイスター養成講座イメージ図

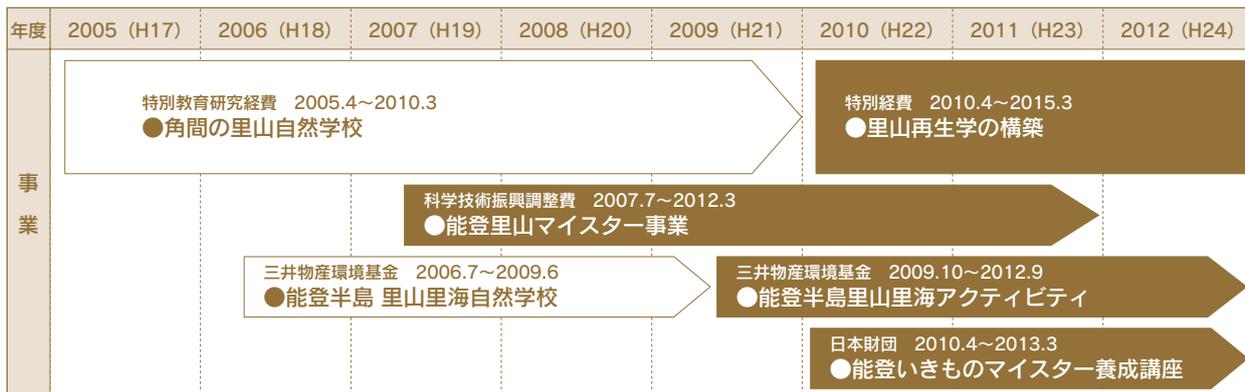


金沢大学里山里海プロジェクト

金沢大学「角間の里山自然学校」の設立(1999)に始まり、文部科学省特別教育研究経費による、「金沢大学『角間の里山自然学校』を拠点とした自然共生型地域づくり」をテーマとした5ヶ年事業(2005.4~2010.3)をへて、現在は、能登半島にも活動の場を拡げて、石川県、金沢市、能登の自治体、民間企業等と連携しています。生物の多様性の保全、里山・里海の持続可能な活用策の提案、次世代の人づくりを目指します。

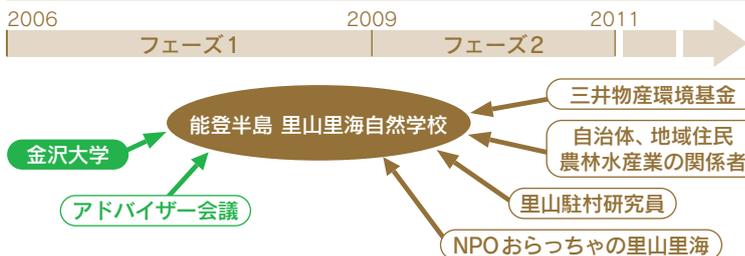
プロジェクト年表

当プロジェクトには「里山里海再生学」、「能登里山マイスター養成プログラム」、「のと半島里山里海アクティビティ」、「能登いきものマイスター」養成講座が含まれます。



- | | |
|--|---|
| 1999年10月 金沢大学「角間の里山自然学校」発足 | 2008年9月 「能登エコ・スタジアム2008」 |
| 1999年10月 文部科学省生涯学習活動の促進に関する研究開発 | 2009年5月 生物多様性条約事務局長アフメド・ジョグラフィ氏を迎え、グリーンウェイブ植樹 |
| 2000年4月 文部科学省生涯学習施策に関する調査研究(-2001) | 2009年10月 「三井物産環境基金「のと半島」能登里山里海アクティビティ」スタート |
| 2002年4月 文部科学省地域貢献推進特別事業(-2004) | 2010年4月 「日本財団 能登いきものマイスター」スタート |
| 2005年4月 「里山プロジェクト」スタート | 2010年4月 「里山里海再生学の構築」スタート |
| 2005年4月 創立五十周年記念館「角間の里」完成 | 2010年8月 「角間里山本部」設置 |
| 2005年12月 里山駐村研究員制度発足 | 2010年10月 「能登オペレーティングユニット」設置 |
| 2006年10月 「能登半島 里山里海自然学校」開校 | 2010年10月 名古屋で開催された「COP10」において多彩な活動を実施 |
| 2007年10月 「能登里山マイスター」養成プログラムスタート | 2010年12月 国際生物多様性年クロージング・イベントClosing Event for the International Year of Biodiversity シンポジウム協力 |
| 2008年1月 「トキが能登に生息するための調査」始まる | |
| 2008年4月 国連大学高等研究所いしかわ・かなざわオペレーティング・ユニットとの連携始まる | |

地域との連携により運営する「能登半島 里山里海自然学校」



- 奥能登の自然と人々の暮らしの「健康診断調査」
- 地域の人々や関係団体、大都市圏からの学生などのボランティアによる里山里海保全活動
- 地域の小中学校、高校、住民を対象に自然観察や体験学習を実施

能登半島 里山里海自然学校のあゆみ

- 2006年7月 三井物産環境基金から事業採択の通知
- 2006年10月 能登半島 里山里海自然学校が開校
- 2007年3月 里山里海メイト発足、保全活動開始
- 2007年4月 ホクリクサンショウウオ珠洲で発見
- 2007年7月 「里山里海学習館」公開
- 2007年8月 留学生・大学生対象「能登・里山里海実習」開講
- 2007年10月 自然学校開校1周年記念シンポジウム
- 2007年12月 里山里海食堂「へんざいもん」オープン
- 2008年2月 フォーラム「よみがえれキノコ山」開催
- 2008年2月 里山里海メイト100名突破
- 2008年4月 里山レシピ100品到達
- 2008年8月 NPO法人能登半島おらっちゃんの里山里海を設立
- 2009年6月 三井物産環境基金による支援(第1フェーズ)終了
- 2009年7月~第2フェーズ(より多様な主体により運営)をスタート

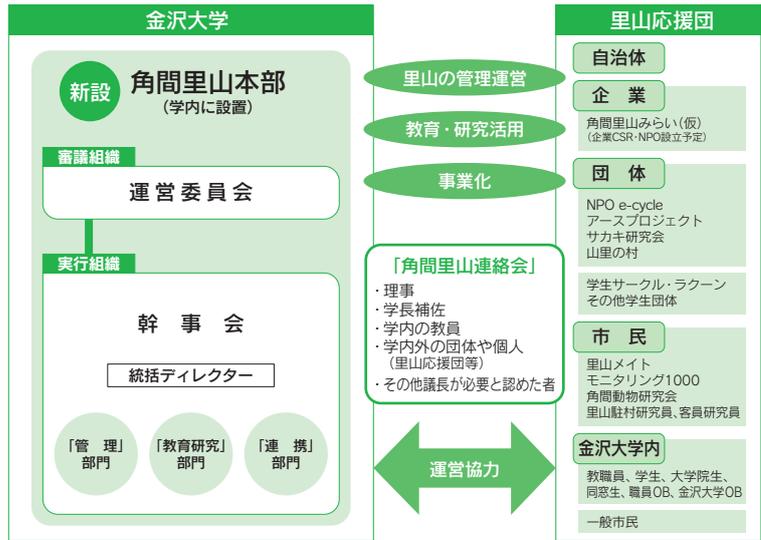


里山里海プロジェクト 研究代表者
中村 浩二 金沢大学・教授・学長補佐(社会貢献担当)

里山里海プロジェクトによる教育・研究活動を通じて、自治体や民間団体とも連携し、里山里海の保全・活用を支援し、地域社会の活性化と自然共生型ライフスタイルの確立を目指します。

平成22年8月、本学角間キャンパス内の「里山ゾーン」の保全と21世紀型の活用、教育及び研究の推進を目的としています。

本部には、審議組織の運営委員会と実行組織の「幹事会」を置き、統括ディレクターが、管理・教育研究・連携の3部門をまとめます。また、学外の協力メンバーである「里山応援団」等との密接な連携を図るために、有識者による諮問機関「角間里山連絡会」を設置します。



平成22年10月、金沢大学の能登半島での多岐にわたる教育研究・地域連携の活動をさらに持続的に発展させるために、能登オペレーティング・ユニットを設置しました。

審議組織の運営委員会を置き、地域連携ディレクターが活動を取りまとめます。

能登オペレーティング・ユニットにおける支援活動

■ 教育

- ・ 共通教育
- ・ 専門教育
- ・ 大学院教育

■ 研究

- ・ 里山里海再生学
- ・ 大気観測・海洋汚染
- ・ 地域医療・保健
- ・ 人文社会科学

■ 地域連携

- ・ 「能登里山マスター」養成プログラム
- ・ 「のと半島」里山里海アクティビティの創出
- ・ 里山里海自然学校 (NPOと共同で運営)
- ・ 能登いきものマスター養成講座
- ・ 地域経済塾
- ・ 震災復興プロジェクト

■ 能登における教育研究課題群



金沢大学 能登学舎

能登半島の先端に位置する旧小泊小学校の校舎を、金沢大学が2006年に珠洲市から無償で借り受けました。里山里海保全に取り組む能登半島・里山里海自然学校や能登里山マスター養成プログラム、大気観測スーパーサイトなど地域貢献と研究、教育施設として活用されています。

